

要 約

報告番号	① 乙 第	号	氏 名	青 木 康 浩
主 論 文 題 名 Risk of venous thromboembolism with a central venous catheter in hospitalized Japanese patients with inflammatory bowel disease: a propensity score-matched cohort study (炎症性腸疾患患者における中心静脈カテーテル留置による静脈血栓塞栓症発症リスクの検討)				
(内 容 の 要 旨) 静脈血栓塞栓症 (Venous thromboembolism : VTE) は炎症性腸疾患 (Inflammatory bowel disease : IBD) 患者における重要な合併症の一つであり、入院中のIBD患者はVTEの発症リスクが高いとされる。欧米諸国ではIBD入院患者に抗血栓薬の予防投与が推奨されているが、東アジアではハイリスク患者に選択的に投与されている。IBD患者では中心静脈カテーテル (Central venous catheter : CVC) の留置が広く行われる。CVC留置はVTE発症のリスク因子と考えられているが、IBD患者におけるリスク増加の程度は不明である。本研究の目的は、抗血栓薬の予防投与を受けていない入院中の日本人IBD患者におけるCVC留置によるVTE発症リスクを明らかにすることである。 本研究は、2016年1月から2020年12月までに入院した潰瘍性大腸炎またはクローン病患者846例を対象とした。原疾患の再燃以外の理由で入院した患者、入院時にすでに血栓症を発症していた患者、何らかの抗血栓療法を受けていた患者は除外した。 入院中のVTE発症を調査し、CVC留置に関連するVTE発症リスクをCVC留置群と非CVC留置群での選択バイアスを軽減するために傾向スコアマッチング法で解析した。またIPTW (Inverse probability of treatment weighting) 法で感度解析を行った。 IBD入院患者497例 (潰瘍性大腸炎327例、クローン病170例) が登録された。VTEは、CVC留置群の9.30% (12/129例)、非CVC留置群の0.82% (3/368例) に認められた。傾向スコアマッチング法により、127組のマッチした患者組が得られた。CVC留置群は非CVC留置群よりもVTE発症率が高かった。(オッズ比 (OR) : 13.15、95%信頼区間 (CI) : 1.68-102.70) IPTW法による感度解析でも同様の結果が得られた。(OR : 11.02、95%CI : 2.64-46.10) VTE発症予測因子の探索的検討では、血清アルブミン値 (OR : 0.28、95%CI、0.12-0.63、P=0.002)、ヘモグロビン値 (OR : 0.79、95%CI : 0.64-0.97、P=0.027)、CRP値 (OR : 1.08、95%CI : 1.02-1.14、P=0.010) および血小板値 (OR : 1.00、95%CI : 1.00-1.01、P=0.025) が相関していた。 CVC留置は、抗血栓薬を投与しない日本人IBD入院患者におけるVTE発症のリスク因子である。IBD入院患者の血栓発症リスクと抗血栓療法自体による有害事象のリスクを考慮する必要があるが、CVC留置を要する活動期IBD入院患者において予防的抗血栓療法が有益であることが示唆された。				